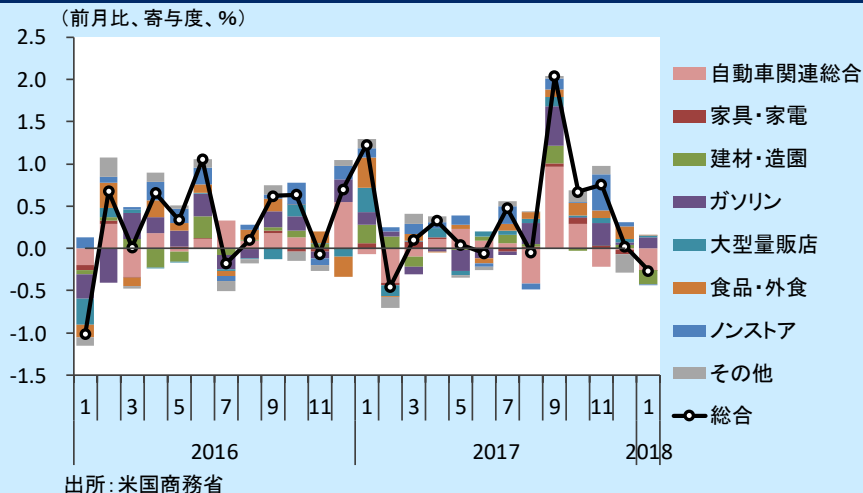


# 米国：小売売上高（2018年1月）

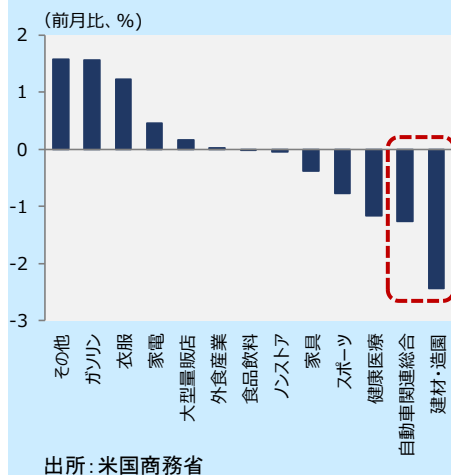
## —5ヶ月ぶりに減少も、消費は拡大基調にある—

*MRI Daily Economic Points*  
February 15 2018

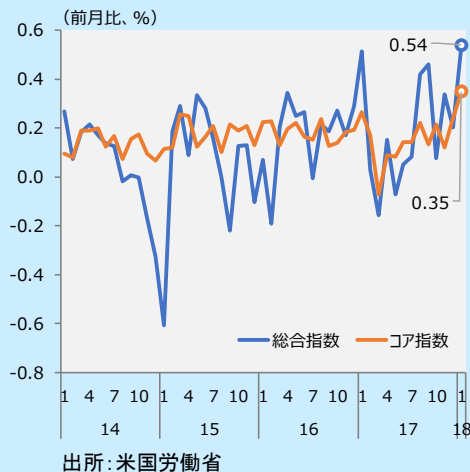
図表1 小売売上高 項目別 寄与度



図表2 品目別売上高伸び率



図表3 消費者物価指数の推移



### 評価ポイント

#### 今回の結果

- 18年1月の米小売売上高(2/14日公表)は、前月比▲0.3%と5ヶ月ぶりに減少した。ただし、背景には①天候不順の影響や、②ハリケーン後の復興需要で続いていた高水準の反動がある。基調を示す自動車、ガソリン、建材を除くコア小売売上高は横ばいだった。
- 内訳をみると、主要13品目のうち6品目が前月から増加。ガソリン価格の上昇を反映したガソリン(同+1.6%)や、衣服(同+1.2%)が大きく増加した。一方で、1月の天候不順の影響を受けて、自動車関連総合(同▲1.3%)や建材・造園(▲2.4%)が大幅に減少し、全体を押し下げた(図表2)。

#### 基調判断と今後の流れ

- 消費の基調は、拡大基調を維持している。背景には、①雇用環境が良好さを維持していることや、②減税期待による消費者マインドの高まり、③1月までの株高による資産効果がある。先行きも、①や②を背景に、消費は拡大基調を維持すると見込む。
- ただし、下振れリスクとしては、①2月以降の米国株価の調整局面が今後も続いた場合、消費にも悪影響が及びうる。また、②1月の消費者物価指数(2/14日公表)が、前月比+0.5%と前月(+0.2%)から大きく上昇したが(図表3)、こうした物価動向に対し、今後、賃金が伸び悩んだ場合、消費は鈍化しかねない。さらに、③現在、上昇傾向にある長期金利が今後も上昇を続けた場合には、耐久財の消費が抑制される恐れがある。